

退任挨拶

前会長
岡本 一 雄



皆様、こんにちは。トヨタ自動車の岡本でございます。2年間、日本知的財産協会の会長を務めさせていただき、このたび退任することになりました。この間、会長の責を何とか果たすことができたのも、ひとえに会員の皆様をはじめ、関係各位の皆様のご支援の賜物と、厚く御礼申し上げます。

本当にこの2年間、いろいろなことがありました。思い出せば、会長に就任したのは東日本大震災の直後でありました。震災がもたらしました未曾有の国難から、何と少しでも強い日本を取り戻したいと、日本全体が一丸となって復興に取り組み始めた時期でありました。

そのような中、JIPAとしても、日本の強さの根幹であります日本のものづくり、そういうものを支援し、日本復興の一助となる策はないかということを実験に模索してまいりました。私は、震災で崩壊したインフラ、工場などの設備を驚くべきスピードで、本当に世界の人たちが驚くほどの速さで復旧をさせました日本人の技術者魂に矜持の念を持ちつつ、また、自ら被災されながらも、日本のために働き続けた被災地の方々のひたむきな姿に心を打たれました。これらは日本人の誇るべき気質であり、大変な強みであると思っています。

その気質と強みから創り上げられました日本ブランド、この輝きを取り戻す意味も込めて、2011年度の知財シンポジウムでは「がんばろう日本、技術とブランドで創る未来！」と題して開催をいたしました。技術に裏打ちされましたブランド戦略で市場の開拓に取り組んだ先駆者の皆様方のお話は、私たち日本人の自信を取り戻させてくれたように思っています。また、レセプションでは、被災地の岩手県盛岡市から「さんさ踊り」の皆様にお越しいただきました。会場を一新する元気なかけ声と笑顔に、「震災なんかに負けるもんか」という大変強い気持ちを感じ、会場中が勇気ももらった大変素晴らしいパフォーマンスであったと思っています。

これから我が国が国際競争力を強化して、再び日本が世界のビジネスの中心となるためには、日本企業がグローバルにビジネスを展開し、その国の発展に積極的に寄与していくことが大変必要だと思っています。また、そのとき、成長著しいASEANが鍵になるということは、昨今の状況からも、皆様も疑っておられるということはないと思います。また同時に、ASEANにおける知的財産制度の充実及び各企業の知財戦略が今後、この地域での成否を左右するといっても過言ではなく、JIPAとしても率先して道を開いていきたいという思いもございます。

そこで、2012年度のJIPA知財シンポジウムは「本音で語る知財戦略とアジアでの成功の秘訣」というテーマで開催をいたしました。シンポジウムではASEAN各国の特許庁の関係者並びにアジアで

本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

積極的に知財活動を行っておられます企業関係者の取り組みや、日々感じている生の声を聞くことができました。出席された多くの皆様からも、アジア、ASEANの知的財産の状況及び将来の展望について理解が深まったという声をお寄せいただき、会長として大変嬉しく思いました。

今年度からは新会長は富士通の間塚さんでございます。グローバルにビジネスを展開されておられまして、また、皆様、ご存じのように、世界一となったスーパーコンピューター「京」を開発するなど、世界の中にイノベーションを起こす会社の経営者の方でございます。世界をリードするJIPAとなるためには、本当にいい方が、適任の方がこのポジションに来られたと思っています。ぜひ、私同様に、皆様方の絶大なるバックアップをお願いしたいと思います。

最後になりますが、日本が知財立国を実現していく上で、JIPAが果たす役割はますます重要になってきております。今後もより一層、知財制度の充実、また企業の知財戦力の強化に向けて、間塚新会長のもと、JIPAがさらに発展することをお祈りいたします。

本当にこの2年間、私にとっては大変貴重な楽しい2年間でございました。本当にありがとうございました。

